



担当
佐藤くるみ(3D)
山下 紗穂(3D)

最後まで息をつかせぬ展開も 強豪相手にあと一歩届かず

硬式野球春季全道大会

5月27日に春季全道高校野球大会が円山球場で行われ、滝西は東海大札幌高校と対戦した。先攻の滝西、一番打者は主将の兵庫紳太郎さん(3F)。初球からショートへの内野安打を放ち、続く田口蒼斗さん(3D)もセンター前にヒットを打った。次の細田悠晴さん(3D)が犠牲フライで兵庫さんを進め、ホームに返り初回で一点を獲得した。その後も2回から5回終了時点で安部陽月さん(3D)が被安打ゼロで無失点で抑えた。

1点リードしたまま6回裏、東海大札幌の攻撃でフォアボールで出したランナーに盗塁を決められた。また送りバントにより三塁まで進み、最後に犠牲フライで1点を奪われた。さらにその後、二塁打によって追加点を許し、1―2と逆転された。7回表に菊地尋翔さん(3E)は二塁打を放ち、その後平瀬優羽さん(3A)がバントを決めて三塁に出塁。そのまま安部陽月さん(3D)の犠牲フライにより1点を追加し、2―2と同点に追いついた。

一・二塁のピンチになった。その直後、左中間へ大きく打たれ、ランニングホームランとなって3点を失ってしまった。2―5となり3点を追う9回、フォアボールで渡邊羽琉さん(2A)が出塁。その後、代打の佐々木龍之介さん(3F)の内野ゴロの間に渡邊さんは二塁へと進んだ。さらに、代打で登場した高橋康生さん(2F)が二塁打を放ち、渡邊さんがホームへ生還して貴重な1点を追加した。高橋さんの代走として遠藤唯人さん(2B)が送り出されたが、続く打球は高く舞い上がってフライとなり、あと一歩及ばず、惜しくも敗北となった。

個人の心もスキルも成長させないといけないと感じた。夏に向けてはこの全道での経験を活かしさらに成長して、自分たちの野球でたくさんの人に結果で恩返しをしていきたい。」と語ってくれた。

投手として5回まで無失点に抑え、さらに打者として7回に犠牲フライで同点の1点を奪った安部さんは「仲間たちが打ってくれ、先制点も取ってくれて、しっかり守ってもらっていて流しはこっちにあつたと思う。しかし6回に先頭打者をフォアボールで出してしまってから流れが悪くなり、それが負けにつながったから悔しい。」と話してくれた。夏の大会に向けては、「今のストレートだとまだまだ打たれてしまうから、夏までに体作りをして145キロは投げられるようにしたい。全道の試合では、ピンチの場面で空振りを取れずに犠牲フライを打たれたり、空振りを取れないのが課題だったので、スプリットや空振りを取れる球種を増やして勝てる投手になりたい。」と意気込みを語ってくれた。

9回表の追加点でホームベースを踏む渡邊さん

初回の犠牲フライで先制に貢献した細田さんは「試合前に兵庫と田口と1・2・3番で絶対に点を取ろうと言っていて、そこで取れたのは良かったが、結果は負けてしまったから悔しいし、

9回でホームに戻り点を入れた渡邊さんは「代打の高橋が打ってくれると信じていたので、ホームに向かい全力で走れた。春で良い相手と戦えたことを糧に、夏に向けて突っ走っていきたい。」と話してくれた。

会場の応援は吹奏楽局の演奏を中心に、三井校長先生、OBの方々や保護者など多くの人が加わり、大いに団結していた。

8回裏マウンドで円陣を組む選手たち

